

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------|-----|--------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援センターピノキオの家 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年9月17日 | | ～ 令和6年10月12日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 16名 | (回答者数) 9名 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年9月17日 | | ～ 令和6年9月21日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 2名 | (回答者数) 2名 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和6年9月17日 | | ～ 令和6年10月12日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象者数) | 16名 | (回答者数) 11件 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和6年12月2日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 複数の立場・職種で連携を行う事で幅広いアプローチを行う事ができる。 | 訪問前に、通所支援職員からも聞き取りし、子どもの状況や見立て等についての擦り合わせを行っています。 | 多職種が関わる強みを活かし、今後も職員間での情報・アセスメントの共有を継続的に図ります。 |
| 2 | 訪問支援の内容を共有することで、子どもへの関りや保護者への対応など一体的にサポートすることができる。 | 訪問前に保護者にニーズの聞き取りを行い、支援内容の報告を行っています。また、今後に向けた目標など共有等を適宜行っています。また、通所支援職員へのフィードバックも行い、一体的なサポートを図っています。 | 引き続き丁寧な情報共有を行うとともに、事業所内で訪問支援の研修を行う等、保護者の思いに寄り添った支援ができるよう心がけていきます。 |
| 3 | 保護者の願いや困り感を十分に共有することができる。 | 保護者との直接面談を基本とし、保護者の思いにより沿いながら訪問前後にお話しできる時間を設けています。 | 引き続き丁寧な保護者とのやり取りを続け、よりよい集団生活につながるよう、園とのつながりも深めていきます。 |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 事業所内での協議時間の確保 | 保育所等訪問支援の専従職員がいないため、ひとりひとりの業務量が多く、各人の兼務業務の隙間を利用して会議等を開催している。 | ランチミーティングなど、現在のシステムの中でできる取り組みを検討し、訪問支援担当者・児童発達支援管理責任者間の連携を図ります。 |
| 2 | 訪問支援としての質の向上 | 保育所等訪問支援に特化した研修制度等がなく、事業所の現状を客観的に評価することが難しい。 | 徳島市の保育所等訪問事業に係る連絡調整会議・発達障害者支援センターハナミズキで実施する発達支援連絡協議会など横のつながりを通して、地域の事業としての質の向上に努めたい。 |
| 3 | 人材の育成 | 訪問支援を継続的に担える人材が限られており、育成の難しさを感じる。 | 時間をかけ、丁寧なOJTを実施していきます。また、事業所の中で訪問支援について学べる機会を作り、潜在的な人材発掘にも努めます。 |